公益財団法人
知床自然大学院大学設立財団

会報第 30号　2023.12.20

Public Interest Incorporated Foundation for Shiretoko Institute of Wildlife Management

設立財団ニュースレター

Vol.30

2023年12月20日発行

知床ネイチャーキャンパス2023・ステップアッププログラム

9月～10月、現地知床で実習・演習を開催しました

Part1　エゾシカ管理

9月27日～30日

実習フィールド：北海道斜里町の知床世界遺産地域と周辺地域
演習会場・宿舎：知床第一ホテル
受講生：17名
（北海道13人、青森1人、千葉1人、岐阜1人、大阪1人）
※オンデマンド配信講義：8月10日～9月15日
※ケースメソッド授業：9月16日、17日

講師（敬称略）：
宇野裕之（東京農工大学大学院農学研究院特任教授）
敷田麻実（北陸先端科学技術大学院大学教授）
金川晃大（公益財団法人知床財団　保護管理事業係長）
寺屋翔太（斜里町役場総務部環境課　主事）
※そのほか様々な地元関係者にご指導いただきました。

Part2　ヒグマ管理

10月28日～31日

実習フィールド：北海道斜里町の知床世界遺産地域と周辺地域
演習会場・宿舎：知床第一ホテル
受講生：14名
（北海道10人、岩手2人、茨城1人、愛知1人）
※オンデマンド配信講義：9月8日～10月20日
※ケースメソッド授業：10月21日、22日

講師（敬称略）：
間野　勉（北海道立総合研究機構 専門研究員）
敷田麻実（北陸先端科学技術大学院大学教授）
梶　光一（兵庫県森林動物研究センター所長）
山本　幸（公益財団法人知床財団 事業部長）
新庄康平（公益財団法人知床財団 保護管理事業係主任）
※そのほか様々な地元関係者にご指導いただきました。

Part1　エゾシカ管理

オンデマンド配信講義
2023.8.10～9.15

長年知床のエゾシカ管理に携わる宇野講師によるオンデマンド配信講義「エゾシカの生態と管理Ⅰ、Ⅱ」（各45分）を各自期間内に視聴し、エゾシカの基礎的な生態や管理の現状を学びました。

ケースメソッド授業
2023.9.16～17

当財団で作成したケース教材「エゾシカ管理最前線」を受講生に事前に読んでもらったうえで、現場の担当者目線で学び、現場が抱えている課題について、敷田講師のファシリテートのもと、オンライン上で議論を行いました。

1日目（2023.9.27）

実習1　世界遺産地域における生物多様性保全とエゾシカ管理

知床財団の金川講師に、エゾシカ管理を行っている岩尾別台地を案内していただき、世界遺産地域内の生物多様性保全のための、巨大な囲い罠を利用したエゾシカの捕獲の取り組みについて解説していただきました。

実習2　森林復元とエゾシカ管理

斜里町役場の寺屋講師に、森林復元を進めているしれとこ100平方メートル運動地を案内していただき、運動の取り組みと、森林復元の障害となっているエゾシカ対策について解説していただきました。

2日目（2023.9.28）

実習3　世界遺産隣接地域におけるエゾシカ管理

林野庁知床森林生態系保全センターの皆さんから、隣接地域でのエゾシカ捕獲の取り組みについて、実際の捕獲の映像や、くくりわなや囲い罠の現物を見せていただき解説していただきました。

実習4　知床におけるエゾシカ猟

斜里町内のエゾシカ狩猟者である川村芽惟さんと山中美歩さんから、知床でどんな生活を送っているかを交えつつ、実際のエゾシカ猟の具体的な流れや、それぞれのエゾシカ猟への関わり方をお聞きしました。

実習5　捕獲個体の活用と流通

知床エゾシカファーム社長の富田勝將さんに加工場に付設されている牧場を紹介していただき、エゾシカファーム設立の経緯や遺産地域内を含めた捕獲個体の活用・流通の流れ、コロナ以後の課題等を解説していただきました。

実習6　観光とエゾシカ

知床ネイチャーオフィス社長のネイチャーガイド、松田光輝さんから、観光資源としてのエゾシカと、エゾシカ管理と観光の関係を解説していただきました。夜にはオプションとして野生動物観察のナイトツアーにも参加しました。

3日目（2023.9.29)

ワークショップ演習

講義・ケースメソッド・現地実習で学んだことを踏まえて、知床が抱えるエゾシカ管理の課題の解決策を考えました。敷田講師、宇野講師らのアドバイスを受けながら、大胆かつ有効な解決策を考えるだけでなく、様々な意見を持つ人々と一緒に、より良い具体的な対策をつくりあげていくための技法を学び実践しつつ、解決策の提案にチャレンジしました。

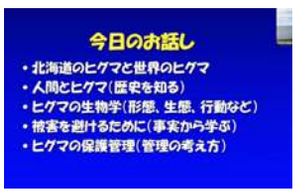
オープンキャンパス・交流会

長期間にわたるステップアッププログラムの集大成を、地域の方々の前で発表しました。「知床オーナー制度」や人材バンクの創設など、個性的な提案が発表され、会場から多くの質問が寄せられました。オープンキャンパス終了後の交流会も含めて、エゾシカ管理に関心を持つ人々の間で交流を深めることができました。

4日目（2023.9.30）　修了式

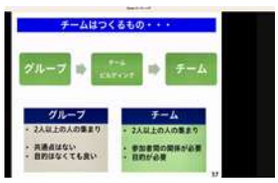
最終日の朝、簡単な修了式を行い、受講生の皆さんに修了証を手渡しました。これでエゾシカ管理の全プログラムが終了し、解散となりました。それぞれの学校や職場に戻ってからも、今回の学びや交流を生かして活躍されることを願っています。

Part2　ヒグマ管理



オンデマンド配信講義
2023.9.8～10.20

長年知床のヒグマ管理に携わる間野講師によるオンデマンド配信講義「ヒグマの生態と管理」（90分）を各自期間内に視聴し、ヒグマの基礎的な生態や管理の現状を学びました。



ケースメソッド授業
2023.10.21～22

当財団で作成したケース教材「ヒグマ対応最前線」を受講生に事前に読んでもらったうえで、現場の担当者目線で学び、現場が抱えている課題について、敷田講師のファシリテートのもと、オンライン上で議論を行いました。

1日目（2023.10.28）

実習1　世界遺産地域におけるヒグマ対策　観光との両立

知床五湖のガイドツアーに参加し、利用調整地区制度や知床五湖のガイドシステムなど、ヒグマの高密度生息地での観光利用を可能にしているしくみを学びました。ヒグマの爪痕や糞などの痕跡も見ることができました。

実習2　世界遺産地域におけるヒグマ対策　普及啓発

知床における人とヒグマの課題を扱った知床自然センターオリジナル映像作品「THE LIMIT」を見た後、知床財団の山本講師から、普及啓発の取り組みを広く紹介していただくとともに、センター内の展示を見学しました。

2日目（2023.10.29）

実習3　協働によるヒグマ対策

「知床ゴミ拾いプロジェクト」に参加し、ヒグマの通り道にもなっている斜里町朱円のオクシベツ川のゴミ拾いを行いました。町内外の方々と一緒に活動しながら、ヒグマ対策における様々な人々との協働について理解を深めました。

実習4　市街地におけるヒグマ対策　住民との共存

知床で実際にヒグマ対応をされている新庄講師とともにウトロ市街地のヒグマ出没ポイントを回りながら、大量出没年となった今年度の状況や、市街地の出没防止対策、出没した際の実際の対応等について解説いただきました。

実習5　世界遺産地域におけるヒグマ対策普及啓発

環境省ウトロ自然保護官事務所の自然保護官、加倉井理佐さんから、自然公園法による野生動物への接近のコントロールなど、環境省によるヒグマ対策の取り組みについて解説いただき、世界遺産センターの普及啓発展示を見せていただきました。

実習6　協働によるヒグマ対策 村上晴花さん講義

実習３で実際に参加した「知床ゴミ拾いプロジェクト」の代表である村上晴花さんから、取り組んでいる様々な活動についてご紹介いただき、活動を進める上で意識していることなどを教えていただきました。

3日目（2023.10.30）ワークショップ演習・オープンキャンパス・交流会

講義・ケースメソッド・現地実習で学んだことを踏まえて、知床が抱えるヒグマ管理の課題の解決策を考えました。敷田講師、間野講師、梶講師らのアドバイスのもと、大胆かつ有効な解決策を考えるだけでなく、様々な意見を持つ人々と一緒に、より良い具体的な対策をつくりあげていくための技法や、作成した提案を魅力的にわかりやすく伝えるための技術についても学び、解決策の提案にチャレンジしました。

長期間にわたるプログラムの集大成を、地域の方々の前で発表しました。ヒグマとの距離を保ちつつ安全に見るためのツアーや「知床マスター（修士）」プログラムなど個性的な提案が発表され、会場から多くの質問が寄せられました。スライドだけでなく、動画を作成して紹介したチームも。交流会も含めて、ヒグマ管理に関心を持つ人々の間で交流を深めることができました。

4日目（2023.10.31）　修了式

最終日の朝、簡単な修了式を行い、受講生の皆さんに修了証を手渡しました。これでヒグマ管理の全プログラムが終了し、解散となりました。それぞれの学校や職場に戻ってからも、今回の学びや交流を生かして活躍されることを願っています。

※知床トーク（2023.10.28夜開催）

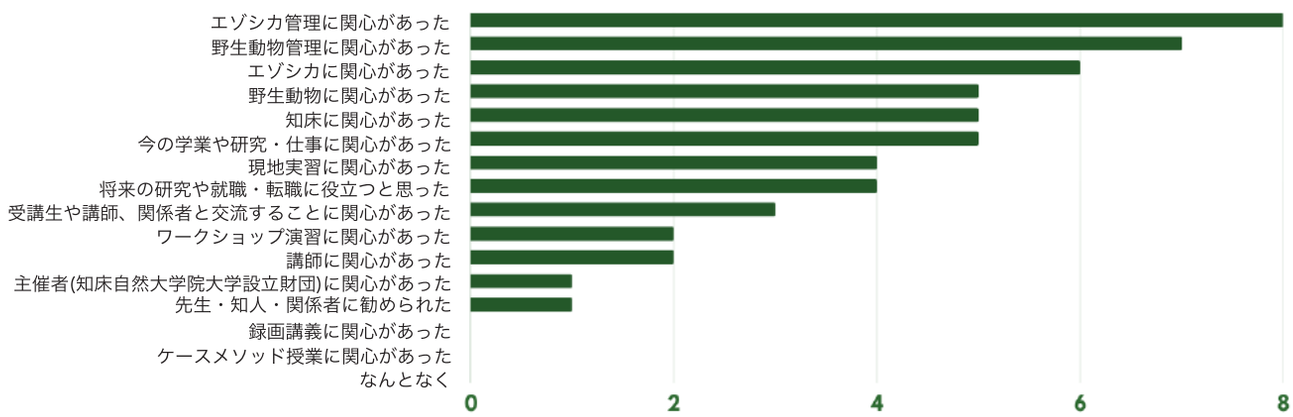
当財団の理事でもある梶講師によるトーク「野生動物と私たち」をプログラムの一つとして開催しました。日本の歴史の中で、人々がどのように野生動物を利用し、管理しようとしてきたのかを分かりやすく解説していただきました。受講生以外にもたくさんの方々にご来場いただき、様々な質問が寄せられました。

※10ページに詳しく掲載しています。

アンケート結果（抜粋）　Part1　エゾシカ管理

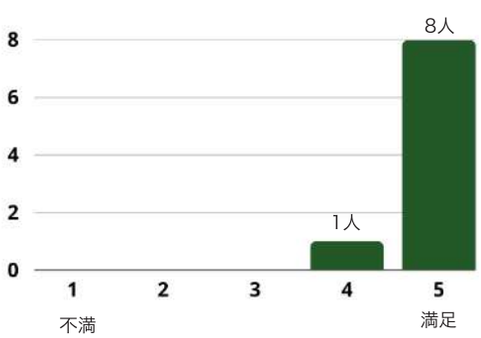
受講生アンケートの結果（抜粋）を掲載します。受講生17人のうち9人から回答をいただきました。

Q：この度のプログラムへの参加動機を教えて下さい。



Q：以下満足度を教えてください。

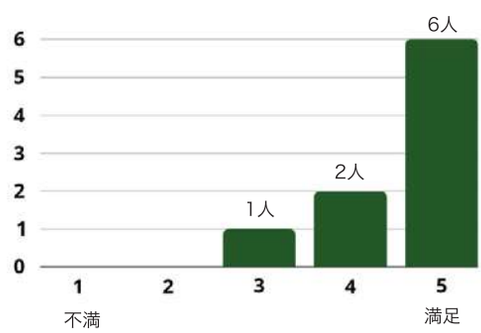
①講義「エゾシカの生態と管理」



①記憶に残った点、学んだ点

・エゾシカそのものについての知識が薄かったので基礎知識として生態を知ることができてよかった。

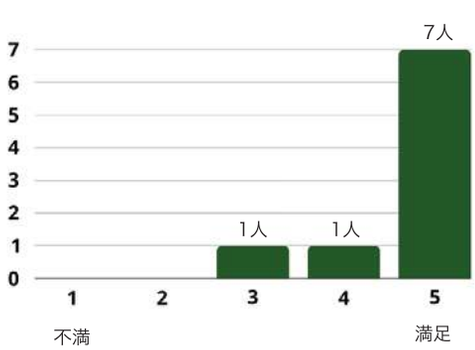
②ケース教材「エゾシカ管理最前線」



②記憶に残った点、学んだ点

・目標に対して現実的な課題など、現場の厳しさを知ることができた。

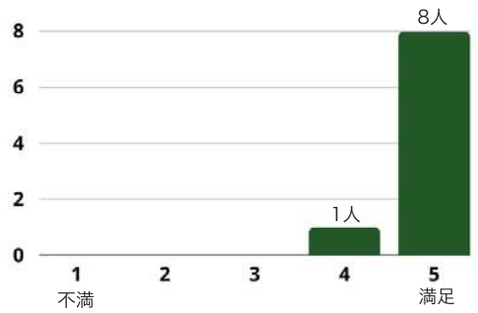
③ケースメソッド授業「エゾシカ管理最前線」



③記憶に残った点、学んだ点

・ケースメソッドという形の授業が初めてだったが、ストーリー性があることによってオンラインながらも知床ウッズの方々の苦悩を考えられたと感じた。
・チームでケース教材の中身に何が書いてあったかをまとめるみたいな作業があったが、全くもって時間の無駄と感じた。こちらは全てしっかり読んで雰囲気を掴んでいるが、記憶しているわけではないので要点はそちらでまとめてほしい。ケースを読んで、チーム内でもっと解決策を練りたかった。

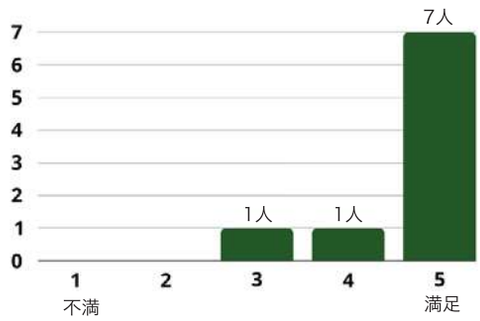
④現地実習



④記憶に残った点、学んだ点

・エゾシカの管理は熊の生息地である知床ならではの大変さがあるというお話が印象に残った。現場で働いている方々の豊かな森を、生態系を残していきたいという熱い思いを知ることができた。
・エゾシカ管理に関わる様々な立場な方々の意見、考えを知ることができた。エゾシカ管理の最善策には一つの正解はなくて、関わる人の分、またはそれ以上にその立場の人にとっての最善策があって、妥協や話し合いを繰り返しながら管理していくことが重要なんだと感じた。

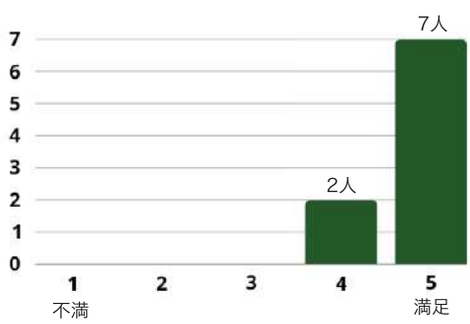
⑤ワークショップ演習



⑤記憶に残った点、学んだ点

・チームの築き方、質問の仕方等、を改めて学びながらワークショップができた点がよかった。今回プログラムで初めて会った方々と「エゾシカ管理」について考え、お互いに意見を出し合い、最終的に今後の管理について提案をまとめあげることができたこと自体が自信にもなった。
・時間があまりにも足りなかった。せめて丸一日作業に当てたい
・普段大学でこういった話し合いをするときは、やはり同じ教育を受けているので、同じ考え、似たような考えを持つ人が多く、逆に話し合いはしやすいなと感じることが多いが、今回自分とは真逆の意見、そういった発想もあるのかと気づかされることが多かった。

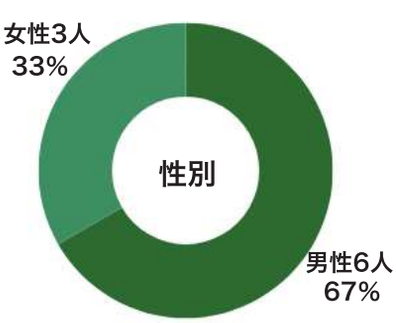
⑥プログラム全体

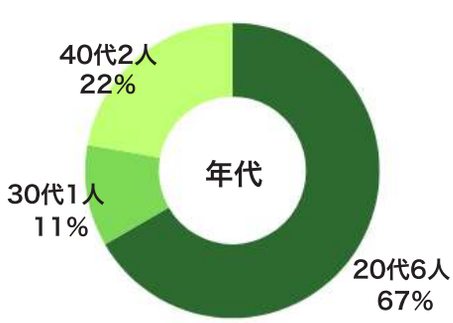


⑥記憶に残った点、学んだ点

・実際に囲い罠の中に入ってみて、自分が囲い罠の中にいることを忘れるぐらい大きなわなにびっくりした。あのインパクトは体験してみると2度と忘れることはないと思う。
・実際に現地に足を運んで歩いてみること、管理に関わられている方々の生の声を聞くことで、エゾシカ管理の難しさやなされている努力、みなさんを突き動かすものを感じることができました。
・学生だけではなく社会人の方とも同じプログラムで参加ができたことは非常にいい経験だったと思う。出身、経歴等様々なバックグラウンドを持った受講生と一緒に学ぶことで、講師陣からだけでなく、受講生からも得られるものがたくさんあった。

ご回答いただいた方について





お住まい

・北海道
・千葉県
・大阪府
・青森県

所属

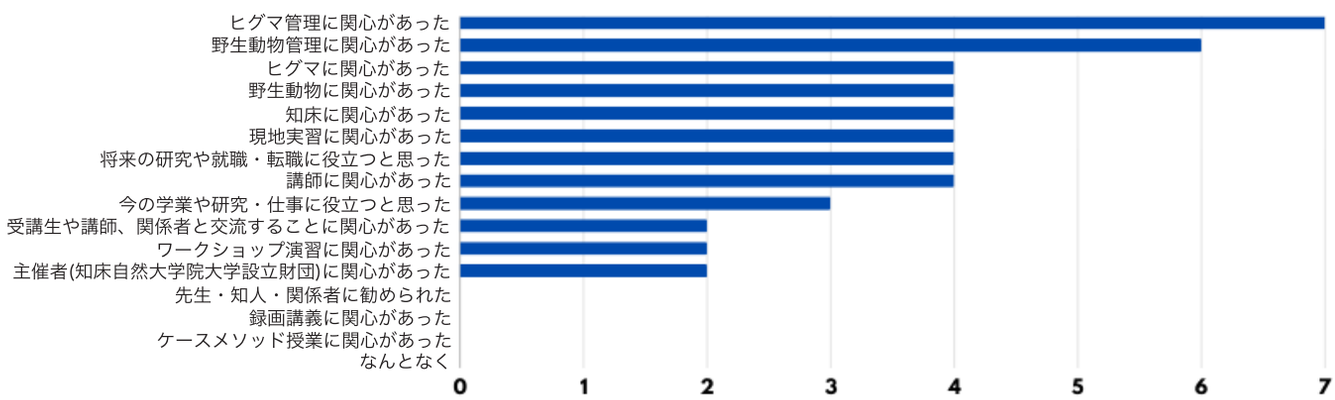
・北里大学
・千葉大学
・酪農学園大学
・環境省
・登別市
・下川町
・旭山動物園
・円山動物園
・民間会社

アンケート結果（抜粋）

Part2　ヒグマ管理

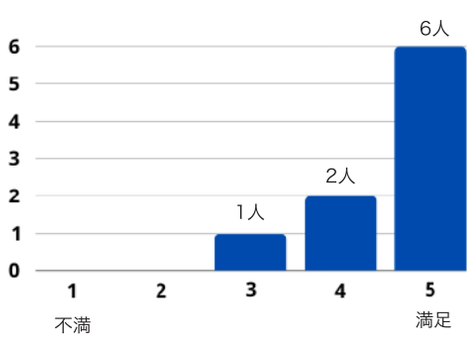
受講生アンケートの結果（抜粋）を掲載します。受講生14人のうち9人から回答をいただきました。

Q：この度のプログラムへの参加動機を教えて下さい。



Q：以下満足度を教えてください。

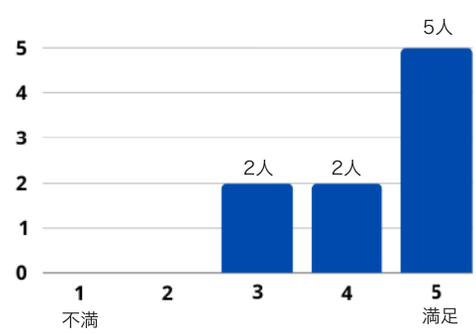
①講義「ヒグマの生態と管理」



①記憶に残った点、学んだ点

・環境収容力と社会的収容力の話。社会的収容力は教育と受け止めで大きく変わるため非常に重要な点だと感じました。

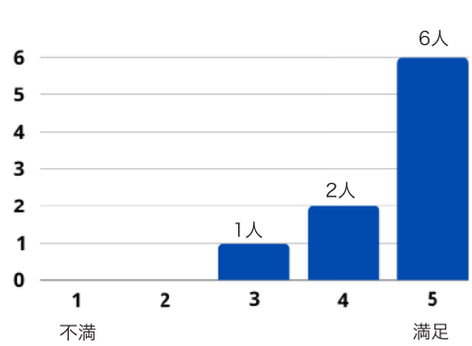
②ケース教材「ヒグマ対応最前線」



②記憶に残った点、学んだ点

・国立公園内での追い払い活動が中止の方向となった事。技術と知識の伴った追い払い活動は上手く機能していると思っていたし、現場が疲弊しているのを感じてやるせない気持ちになりました。

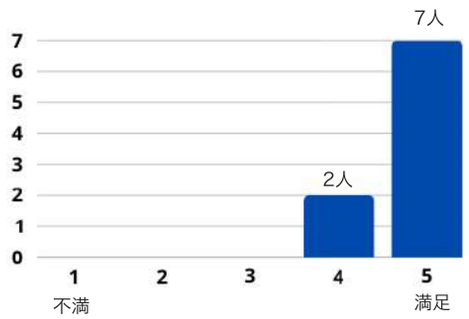
③ケースメソッド授業「ヒグマ対応最前線」



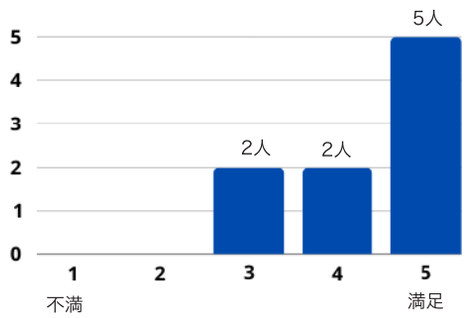
③記憶に残った点、学んだ点

・各々同じような思いつきもあったが、異なる発想もあり驚きであった。 が、実際に現場では既に行われている事がほとんどであり、考えが浅い事を後に思い知ることになりました。
・予習による理解度がメンバー間でばらつきがあったが、ケースメソッドを通して、ある程度共通の基礎作りができてよかった。敷田先生のファシリテートで自由に議論できる場がうまく形成されたと感じた。

④現地実習



⑤ワークショップ演習



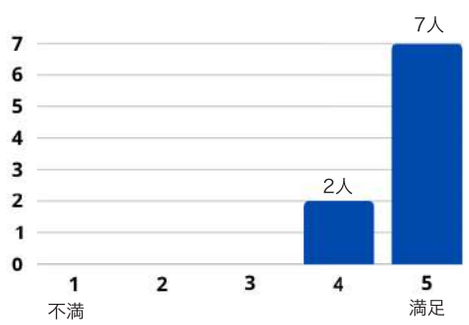
④記憶に残った点、学んだ点

・ガイドさんと知床財団さんの説明（講師の先生を含め）や個人として思う事をお伺いでき、勉強になりました。日頃から疑問に思う事、その場で疑問に思ったことをすぐ質問でき、回答いただける時間は貴重でした。
・ネガティブな事をポジティブに変換して楽しむ事を大切にしている事。ルールを守れなければ規制をすれば良いと思っていたが、それでは問題が解決したとは言えない事を痛感しました。
・知床五湖での観光の仕組みが記憶に残っている。ケースメソットで班で話し合った似たような内容が実際に行われており、知床での問題に対する行動力、財団などの関係者が知床を思う気持ちが伝わってきた。

⑤記憶に残った点、学んだ点

・現地実習で得た気づきをヒントに楽しむ事を大切にし、最初は思いつかなかった方向に向かったが、皆が意見を出し合い形になった事。
・非常に濃密な議論ができて満足。ただし、まとめる段階で面白いアイデアを現実性の観点から捨てていく過程があり、もったいないと感じた。面白いアイデアを推し進める強情な人がいないと、突飛なアイデアが発表まで生き残らない。
・ワークショップは初めてだったので、即席のチームで課題に取りかかり、挙げられた意見をまとめるという行為が苦手であること、議論の「収束」と「表現」の難しさに気づきました。

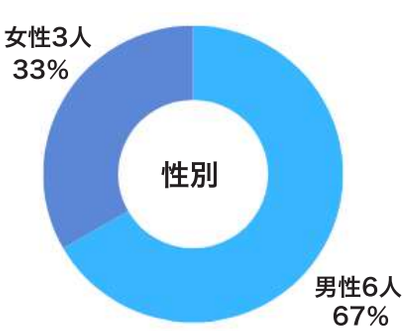
⑥プログラム全体

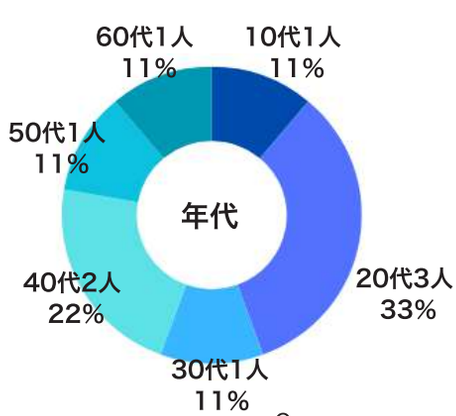


⑥記憶に残った点、学んだ点

・現場対応の方の声や参加者と講師の方との雑談（質問や意見交換を含め）から学んだことは多かったです。講演や講習を受けるだけでは、このような貴重な体験はできないのでとても大切な時間でした。
・共通の課題に向かう事で年齢や立場関係なく打ち解けられた事が嬉しかったです。
・高密度生息域における先進的実践事例を肌感覚で学ぶことができた。貴重な経験をさせていただき誠にありがとうございました。
・いろいろな立場の人が参加しているので、クマに対する温度差もあって多様でおもしろい議論ができた。初日にクマを見れたことで、合宿全体の熱量が上がった気がする。

ご回答いただいた方について





お住まい

・北海道
・岩手県
・茨城県
・愛知県

所属

・岐阜大学
・岩手大学
・環境省
・下川町
・猟友会
・医療機関

■ 知床トーク「野生動物と私たち～つきあい方の過去・現在・未来～」を開催しました

日時：2023.10.28(土) 19:30～20:40
場所：知床第一ホテル　大会議室
講師：梶　光一（東京農工大学名誉教授・兵庫県森林動物研究センター所長）
参加者：41名

※知床ネイチャーキャンパス2023・ステップアッププログラム
Part2：ヒグマ管理の一般公開プログラムとして開催しました。

知床ネイチャーキャンパス2023の開催に合わせ、4年ぶりに一般向けの知床トークを開催しました。講師は当財団理事でもある梶光一・東京農工大学名誉教授。ホモ・サピエンスが登場してから現代に至るまで人間がどう野生動物と付き合ってきたのか、それを踏まえて今後の付き合い方をどう考えればいいのか、などを解説いただきました。短い時間ながら中身が濃く、クマやシカなど現在の野生動物管理の課題に関する質疑応答も多数行われました。

■ オンライン特別連続講座「ワイルドライフマネジメント」を開催します

※募集は終了しました

クマやシカなど野生動物による農林水産業被害や人身事故が頻発している現在。この問題に早くから警鐘を鳴らし、科学的対策を実践してきた梶光一・東京農工大学名誉教授が、14回のオンライン連続講座で、「ワイルドライフマネジメント」の歴史と最前線について詳述します。

日　時：2024年1月16日（火）　19：30～21：00　スタート
（以降、原則隔週火曜日実施　※一部変則あり）

テキストに『ワイルドライフマネジメント』（梶光一著、東京大学出版会刊、税込4,620円）を使用します。詳しく学びたい方はぜひこちらをお読みください。

■ 知床ネイチャーキャンパス presents オンライントークセッション
研究するってどういうこと？～知床をフィールドにする研究者たち～　を開催します

知床をフィールドにそれぞれのテーマを持って研究に励む若手研究者の皆さんに、研究内容や研究愛、知床で繰り返される喜びや苦労を語っていただきます。知床に興味のある方、地域の方はもちろん、研究に興味のある中高生や大学生の皆さんもぜひご参加ください。

オンライン開催（Zoom）
日　時：2024年2月3日（土）14:00～16:00
定　員：80人（先着順）
申込み：下記のGoogleフォームよりお申込みください
https://forms.gle/LDr7GtKKhtqPXd7r8

講　師（スピーカー）：
白根ゆりさん（北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所自然環境部　研究職員）
鈴木紅葉さん（東京大学 先端科学技術研究センター 特任研究員）
船木大資さん（筑波大学大学院 博士後期課程　知床自然大学院大学設立財団研究員）

公益財団法人
知床自然大学院大学設立財団

追悼　丹保憲仁さんを偲んで

当財団相談役・元北海道立総合研究機構理事長・北海道大学名誉教授（第15代総長）

90歳　2023年8月6日ご逝去

中川　元
当財団業務執行理事・元知床博物館館長

当財団の設立当時から相談役としてご指導を頂いていました丹保憲仁先生が今年8月6日にご逝去されました。環境工学の第一人者として、また、北海道大学の総長や放送大学の学長として教育研究に残された業績、退官後に北海道のために尽くされた貢献は広く知られているところです。当財団の運営にも数多くのご助言、ご指導をいただいておりました。

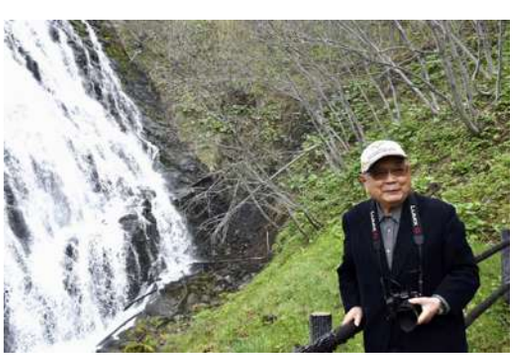
私が丹保先生に初めてお会いしたのは2007年、北海道博物館協会の理事会の席でした。丹保先生は北海道大学の総長を退任された後、北海道開拓記念館（現・北海道博物館）の館長に就任され、北海道博物館協会の会長として道内の博物館・美術館・動植物園の連携や課題解決に努められました。当時私も同協会の理事を務めており、年に数回の理事会や終了後の懇親会で丹保先生とお話をし、深い学識と気さくなお人柄に接する機会を持つことができました。中でも、知床博物館の活動を高く評価いただいたことが忘れられません。特に出版活動が充実していることをお褒めいただき、大変うれしく思ったことでした。その後も北海道博物館の構想検討会にも呼んでいただき、先生の幅広い見識や北海道の発展への思いに接することができました。

当財団が設立された2013年の夏、丹保先生が理事長をされていた北海道立総合研究機構の本部を役員数人で訪問し、当財団の趣旨・目的等をお話ししたところ、教育機関の必要性をよく理解いただき、快く相談役をお引き受けいただきました。その後も折に触れてご助言をいただいたり、著書をお送りいただきました。先生はご専門の「水」と人との関わりから、地球環境問題や食糧・エネルギー問題にも見識が深く、持続可能な日本の将来と北海道の役割についても提言されています。グローバルな視点から北海道のことも考えておられたことは、先生が道北の豊富町のご出身であることによるものと思います。

2017年5月に丹保先生は奥様とお二人で知床を訪問されました。斜里町に来られたのは50年ぶりとのこと。1960年代に起こった工場排水処理と環境保護の問題で、専門家として調査に来られて以来とのことでした。この問題は排水処理のために海岸砂丘林内に浸透池を作るという計画で、当時全道的な環境問題として大きな話題になっていました。その後の経過にも心を痛められていたとのことでしたので、浸透池の役割は程なく終わり、跡地は植林され、今では森林の復元が進んでいることを説明しました。知床には3日間ほど滞在され、世界遺産地域内や知床博物館をご案内し、地元役員との懇談の場も持っていただきました。写真が趣味の先生は一眼レフカメラを常に離さず、盛んに撮影されていたことが思い出されます。

その後、羽田空港で偶然お会いしたことがありましたが、リュックサックを背負ってスタスタと早足で歩かれる姿はとてもご高齢とは思えませんでした。それだけに訃報をお聞きした時は信じられず、まだまだ長生きされて当財団の活動を見守っていただければと大変悲しく残念に思った次第です。

これまで丹保先生にいただいた温かいご指導に厚く感謝申し上げると共に、ご冥福を心からお祈り申し上げます。



知床を訪れた丹保先生（2017年5月）

日本と北海道の将来について
書かれた著書（2009年刊）

知床自然大学院大学設立財団は、活動を支援してくださる **賛助会員、寄付金** を募集しています

当財団の事業は皆様から寄せられた浄財によって実施されています。何卒、一層のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。なお、当財団は内閣総理大臣の認定を受けた公益財団法人です。当財団への寄付金・賛助会費は、特定公益増進法人に対する寄付金として税法上の優遇措置が適用されます。法人の皆様には損金算入限度額の優遇措置が、個人の方には所得税の税額控除（または寄付金控除）の対象となります。また遺贈も承っております。詳しくはホームページ、または当財団事務局までお問い合わせください。

■賛助会員とは
この財団の目的に賛同する個人・団体・法人が会費を通じて支援するものです。

■会員の年会費　※年度ごとの納入となります。
個人会員：5,000円
団体会員：10,000円
法人会員：20,000円
法人特別会員：100,000円

■加入申し込み方法
「申込書」と「郵便振替用紙」をご使用ください。これらは当財団ホームページからプリントアウトできます（入金は右記口座への入金でも受付しています）

知床自然大学院大学設立財団ホームページ
賛助会員・寄付金募集ページ
http://shiretoko-u.jp/supporter/

■賛助会員の特典
当財団のニュースレターや絵はがき、講演会やネイチャーキャンパス等の案内情報をお送りします。

■寄付金について
寄付金も随時募集しています。賛助会員加入同様にお申し込みください。

■税制優遇について
当財団への寄付金・賛助会費には税制上の優遇措置があります。

■主な入金口座について
ゆうちょ銀行　記号19940（普）10138691
（※他の金融機関から　店名九九八　番号1013869）

北洋銀行斜里支店	店番452	（普）3119440
北海道銀行斜里支店	店番904	（普）0530326
網走信金斜里支店	店番003	（普）0284957
大地みらい信金羅臼支店	店番003	（普）1072873

設立財団ニュースレター　第３０号

発行　公益財団法人知床自然大学院大学設立財団
〒099-4117　北海道斜里郡斜里町青葉町 28-10
TEL　0152-26-7770　FAX　0152-26-7773　E-mail　sizendaigaku@wine.plala.or.jp
Web　https://www.shiretoko-u.jp

発行日　2023年１２月２０日